

## 5. 問い合わせ件数（H25 年度分）

	漁協・水産団体等	漁業者・水産加工業者	官公庁	学校等	マスコミ等	一般企業	一般県民	その他	合計
漁場・環境	1	0	3	0	7	2	5	0	18
魚・水生生物	4	7	8	2	25	9	4	0	59
漁業	0	0	1	0	1	0	0	0	2
利用加工	0	8	4	2	11	5	1	0	31
栽培・養殖	1	0	3	0	13	3	2	1	23
安全・安心	0	7	4	0	0	3	0	2	16
漁業被害	4	2	3	0	2	0	1	0	12
珍魚・特異現象	0	0	0	0	4	0	1	0	5
その他	0	0	4	1	3	2	0	2	12
合計	10	24	30	5	66	24	14	5	178

## 6. 発表業績

### (1) 学術誌等での発表

#### ○学術誌での発表

- ・小型水槽を使用したアカアマダイの種苗生産：清川智之・堀 玲子・佐藤利夫、水産技術、**6**(2)、147-159 (2014.2).
- ・耳石 Sr : Ca と採集調査から推定された宍道湖産ワカサギの回遊パターン：藤川裕司・片山知史・安木 茂、水産増殖、**62**(1)、1-11 (2014.3).
- ・Molecular characterization of muscle-parasitizing didymozoids in marine fishes : Abe N, Okamoto M and Maehara T. Acta Parasitologica, **59**(2), 354-358 (2014).
- ・日本海西部海域産ヤナギムシカレイの再生産関係：今井千文・道根 淳・村山達朗、水大校研報、**62**(1)、31-38 (2013.9).
- ・日本海西部海域産キダイの再生産関係：今井千文・道根 淳・村山達朗、水大校研報、**62**(3)、91-97 (2014.3).

#### ○学会・研究集会等での口頭発表

- ・底びき網で漁獲された魚類数種の鮮度：岡本 満・沖野 晃・井岡 久、平成 25 年度水産物利用関係研究開発推進会議利用加工部会研究会資料、46-47 (2013.11).
- ・近赤外分光分析法によるマフグの雌雄判別法の開発：内田 浩・井岡 久、岡本 満、石原成嗣、平成 25 年度水産物利用関係研究開発推進会議利用加工部会研究会資料、60-61 (2013.11).
- ・底びき網で漁獲された魚類数種の鮮度変化：岡本 満・沖野 晃・井岡 久、水産物の利用に関する共同研究第 54 集、56-57 (2014.3).
- ・カレイ塩干品の品質改善について：井岡 久、岡本 満、水産物の利用に関する共同研究第 54 集、58-61 (2014.3).
- ・江の川における河床形態の変遷：寺門弘悦・曾田一志、平成 25 年度全国湖沼河川養殖研究会アユ資源研究部会報告会 (2014.2).
- ・沖合底びき網漁業における漁具の抵抗軽減に関する実証試験：沖野 晃（島根水技セ）・山崎慎太郎・藤田 薫（水研セ水工研）・鈴木勝也（日東製網）・江幡恵吾（鹿大水）、平成 25 年度日本水産学会春季大会要旨集、p.7 (2014.3).